

ボランティアさんと
ご利用者のつながり

ボランティアさん

個人・団体を問わず、多くの地域ボランティアさんが手伝ってくださるおかげで、さまざまな活動に取り組むことができます。サポート内容は、折り紙や刺繍などの手先を動かす活動から体操や花を育てる園芸のサポート、入浴後の髪のドライヤーかけまで幅広く、会話のきっかけともなり、ご利用者の笑顔が増えています。



🐟 **ダイエ務店**

ご利用者自身が木工作業に自主的に取り組む活動です。ノコギリや電動ドリルを使って浴室の下駄箱や本棚などを製作しています。はじめてトンカチを触る方から建築業界出身のご利用者まで、皆様で役割分担をして完成させます。普段は控えめな方が率先して作業するなど、ご利用者の新たな一面も見ることができます。



ご利用者自身が家庭菜園や園芸に自主的に取り組む活動です。家庭菜園では、毎日水やりをして愛情を込めて野菜を育てています。今年の夏は、プチトマトや枝豆、グリーンピースなどをたくさん収穫しました。虫よけ効果があるとされるマリーゴールドの花も植えるなど、ご利用者の経験を活かした工夫もしています。



社協とボランティア団体
連携し、困難を抱える方々
交流の場として毎月第4日
日に無償で開く「社協カレ
食堂」に、ご利用者が育て
野菜を提供しています。



市内の店舗が販売する菓子や食品を、ご利用者の皆様に楽しむ。

絵手紙、朗読、パワー
アップ体操、座りなが
ら体操など。

カラオケ・音楽喫茶・オ
カリナ演奏・ジャズ・ハー
プ演奏など。

土いじりが好きなので、毎回参加しています。家でも野菜や花を育てていますが、ここでは仲間とワイワイと一緒に取り組めて楽しいし、元気に育った姿を見ることに、生きがいを感じます。わたしの元気の源なので、これからも続けていきたいです。



向日市には、社協とともに安心で暮らしやすい地域づくりや仲間づくりに取り組むさまざまな団体があります。そのような団体の活動内容や魅力を知っていただくため、シリーズで紹介していきます。興味を持った方はぜひ地域での活動や行事に参加していただき、いまの生活をより豊かで快適にしていきましょう。



向日市三つ和母子会 会長 堀 秀子さん  おてね

設立年 1950年 **登録人数** 33世帯

活動日 毎週水曜日(こどもの居場所づくり事業)

活動時間 17:30～20:00(こどもの居場所づくり事業)

会費 【母子会会費】年額 1,200円 【居場所参加費】1人1回100円(食費)

問い合わせ先 090-7118-6522(堀さん)



A ひとり親家庭の親子を対象に、こどもの居場所づくり事業、交流会や講習会の開催など、さまざまな活動を行っています。京都府母子寡婦福祉連合会が母体で、今年で結成75周年を迎えます。日帰りバス旅行やフラワーアレンジメント体験、クリスマス会など、子どもから大人まで楽しめる企画もあり、同じような境遇の人同士の意見交換や互いに助け合う機会とすることを目指しています。

A たとえば、「こどもの居場所づくり事業」に参加した当初は大声を出すなど感情を抑えられなかった子どもが、周囲の大人や大学生たちと交流することで落ち着きを取り戻し、自立性や積極性が芽生えることがあります。大学生は子ども一人ひとりに寄り添って、「この問題できたね!」「すごいやん!」と声をかけて子どもの自信と個性を伸ばしてくれるので、その成果だと感じています。また、会員さんの手料理がおいしくて、苦手な野菜を食べられるようになった、という事例もあります。一方の親御さんも、少しずつ他の参加者と交流されるようになりますね。子育てや生活の悩みがある際は、必要に応じてスタッフが行政につながるサポートも行っています。見学も大歓迎ですので、ぜひ気軽にお問合せくださいね。

A 第4向陽小学校近くの永坪会館をお借りして、ボランティアの大学生が子どもに勉強を教えたり、一緒に遊んだり、また母子会の会員さんが作ってくれた料理をみんなで食べたりして交流しています。長年参加している家庭のお子さんが高校生になって今度は年下の



A circular portrait of Professor Tetsuo Nishida, an elderly man with grey hair, wearing a dark suit, white shirt, and orange tie.

このたび、向日市社会福祉協議会会長を退任することとなりました。在任中は、多くの皆様にご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

域のつながりの希薄化、さらには新型コロナウイルス感染症の影響など、地域福祉を取り巻く環境が大きく変化する中での歩みとなりました。そうした中でも、行政や地区協議会・児童委員、ボランティア団体をはじめとする関係機関・団体の皆様と連携し、「誰もが安心して暮らせる地域づくり」の実現を目指して取り組んでまいりました。

また、国が進める「地域共生社会」の実現に

向けた動きを踏まえ、本会においても「第4次向日市地域福祉活動計画」に基づく施策を推進し、地域の実情に即した支援体制の構築に力を注いでまいりました。こうした取り組みが市民の皆様にとって、わずかも意義のある取り組みとなっていたのであれば、心より嬉しく思います。

このたび、清水陽一前会長の後を引き継ぎ、向日市社会福祉協議会会長に就任いたしました。微力ながら、地域福祉のさらなる充実と「誰もが安心して暮らせる地域づくり」の実現に向けて、職責を全うしてまいれる所存でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、人口減少や高齢化、核家族化の進行に加え、地域のつながりの希薄化など、私たちを取り巻く社会環境は大きく変化しています。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域福祉やボランティア活動にも多大な影響が生じ、これまで当たり前だった支え合いの形が見直しを迫られています。

こうした状況の中で、孤立や困窮といった課題を抱える方々への支援が、これまで以上に重要となっています。国においても、地域全体で人と人、人と地域がつながる「地域共生社会」の実現を掲げ、「重層的支援体制整備事業」などの新たな仕組みづくりが進められています。

向日市社会福祉協議会といたしましても、「第4次地域福祉活動計画」に基づき、行政や地区社協、民生委員・児童委員、ボランティア団体、地域の皆様と連携しながら、「お互いさまで支え合う地域づくり」を一層推進してまいります。

今後とも、市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。会長就任のご挨拶させていただきます。